

第2回 高梁川水系小田川堤防調査委員会

配布資料一覧

配付資料一覧（本紙）

議事次第

席次表

資料-1 委員会規約・委員名簿

資料-2 平成30年7月豪雨の気象・水文概況

資料-3 倉敷市真備町の浸水被害状況

資料-4-1 国管理河川 小田川の河川管理施設等の被害及び
応急復旧対策の状況

資料-4-2 岡山県管理河川 末政川・高馬川・真谷川の
河川管理施設等の被害及び応急復旧対策の状況

第2回 高梁川水系小田川堤防調査委員会

議事次第

日時：平成30年7月27日（金）10：00～12:00

場所：国土交通省岡山河川事務所会議室

1. 開会
2. 規約改正
3. 議事
 - (1) 小田川堤防決壊の概要
 - (2) 末政川、高馬川、真谷川堤防決壊の概要
4. 閉会

高梁川水系小田川堤防調査委員会 規約（案）

第1条 （名称）

本会は、「高梁川水系小田川堤防調査委員会」（以下「委員会」という。）と称する。

第2条 （目的）

委員会は、国が管理する高梁川水系小田川の倉敷市真備町箭田地区及び尾崎地区、岡山県が管理する末政川の倉敷市真備町有井地区、高馬川の倉敷市真備町箭田地区、及び真谷川の倉敷市真備町服部地区において発生した堤防決壊に対し、その原因を究明するとともに、復旧工法等に関して国土交通省中国地方整備局及び岡山県に対し専門的な指導・助言を行うことを目的とする。

第3条 （構成）

- 1 委員会を構成する委員は別表のとおりとし、国土交通省中国地方整備局長及び岡山県知事が委嘱する。
- 2 委員会には委員長を置くものとし、委員の互選によって定める。
- 3 委員長に事故等があるときは、委員長が予め指名する委員がその職務を代行する。

第4条 （運営）

- 1 委員会は、委員長が会務を総括するとともに委員会の開催にあたっては委員を招集する。
- 2 委員会は、委員長が必要とした場合又は事務局より要請があった場合に開催する。
- 3 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。
- 4 委員会は、目的を達成するために必要と認める場合には、委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。
- 5 委員の代理出席は認めない。

第5条 （任期）

委員の任期は、各委員への委嘱状に記載される期間とする。

第6条 （委員会の公開方法）

- 1 委員会の議事は、非公開とする。
- 2 委員会資料は、原則公開とする。なお、委員から非公開を条件に提供された情報、関係者と調整中の事項等未成熟な情報、及び公開することにより特定の者に不当な利益若しくは不利益を及ぼすおそれがある資料については、当該資料の公開の可否について委員会で決定する。
- 3 委員会の議事概要は、事務局が取りまとめ、前項で公開することとした資料と合わせて、

速やかに国土交通省中国地方整備局及び岡山河川事務所の WEB サイト、並びに岡山県の WEB サイトにおいて公開する。

なお、議事概要は、発言者の氏名及び前項で非公開と決定した資料に関する内容は除く。

第7条 (事務局)

- 1 委員会の事務局は、国土交通省中国地方整備局河川部河川工事課及び岡山河川事務所計画課、並びに岡山県土木部河川課及び備中県民局建設部工務第二課に置く。
- 2 事務局は、委員会運営に係る庶務を処理する。なお、被災要因や本格的な復旧工法については、各河川において密接に関係することから、一体的に検討等を進める必要があるため、国土交通省中国地方整備局が主体となって庶務を担うものとする。

第8条 (その他)

本規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会で定める。

附則 この規約は、平成30年7月10日から施行する。

改正 この規約は、平成30年7月 日から施行する。

別紙

高梁川水系小田川堤防調査委員会 委員名簿

(委員)

五十音順

氏 名	所 属	分 野
佐々木 哲也	国立研究開発法人 土木研究所 地質・地盤研究グループ 土質・振動チーム 上席研究員	土質分野
竹下 祐二	岡山大学大学院環境生命科学研究科 教授	地盤・地質分野
西垣 誠	岡山大学大学院環境生命科学研究科 特任教授	地盤・地質分野
福島 雅紀	国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 室長	河川分野
前野 詩朗	岡山大学大学院環境生命科学研究科 教授	河川分野
森 啓年	山口大学工学部社会建設工学科 准教授	地盤分野
吉田 圭介	岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授	河川分野

平成30年7月豪雨の気象・水文概況



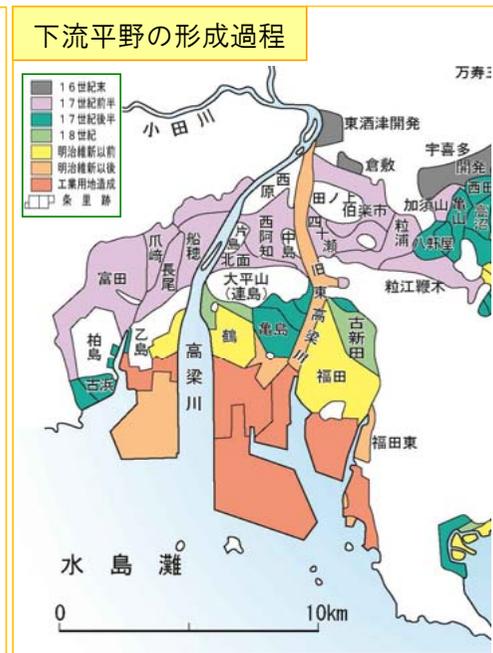
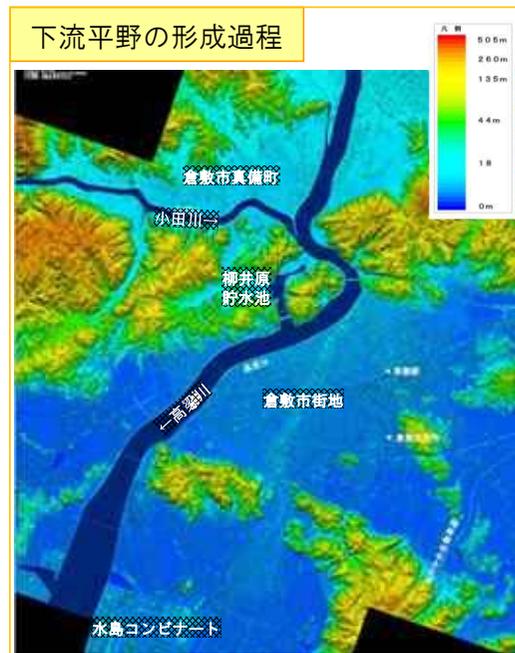
国土を**整**え、全力で**備**える

国土交通省
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

高梁川流域の概要、土地利用の状況

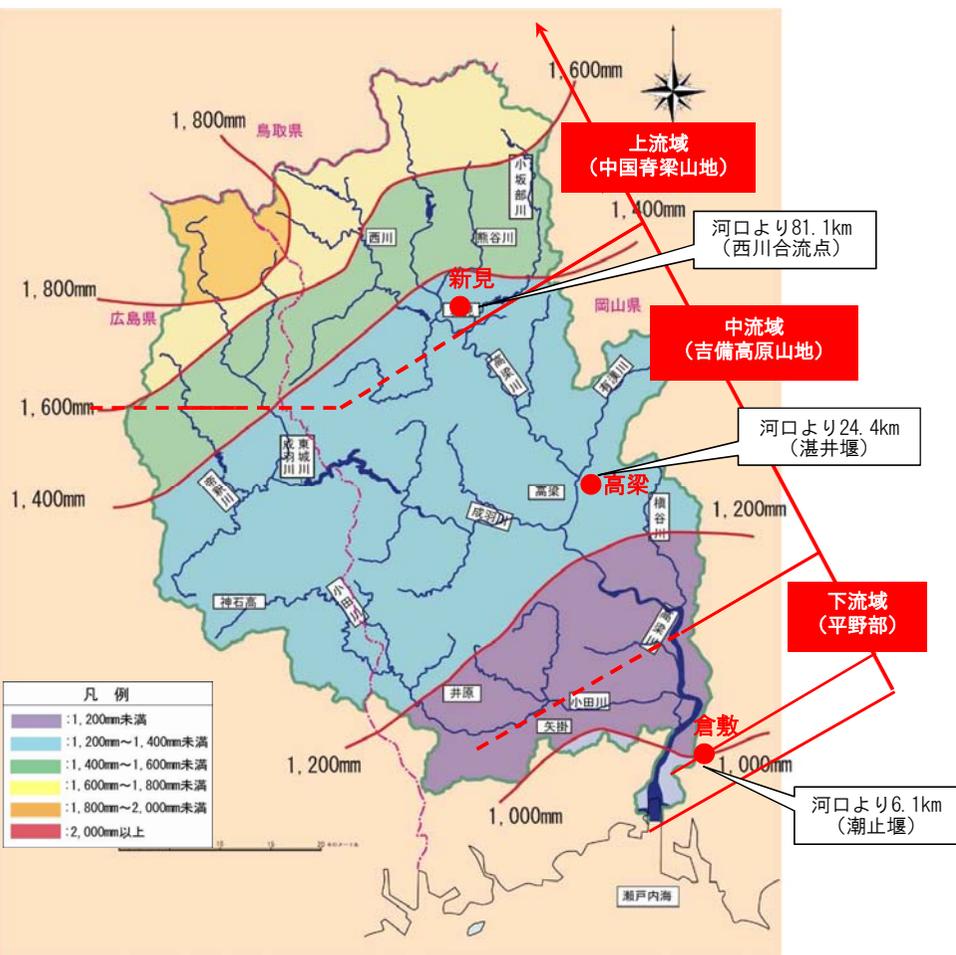
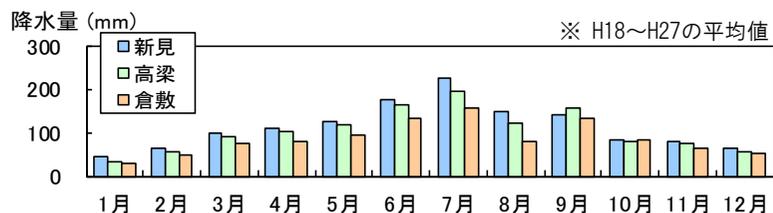
- 高梁川流域は、流域面積 2,670km² 幹川流路延長 111kmの岡山県西部を流れる一級河川で、岡山県第二の都市である倉敷市を貫流
- 高梁川下流域は、江戸時代中期頃から干潟の干拓や埋立等によって形成された「ゼロメートル地帯」が広がる
- 高梁川が一度氾濫すると、その影響は流域外の倉敷市街地や水島コンビナート等にもおよび、甚大な被害が発生



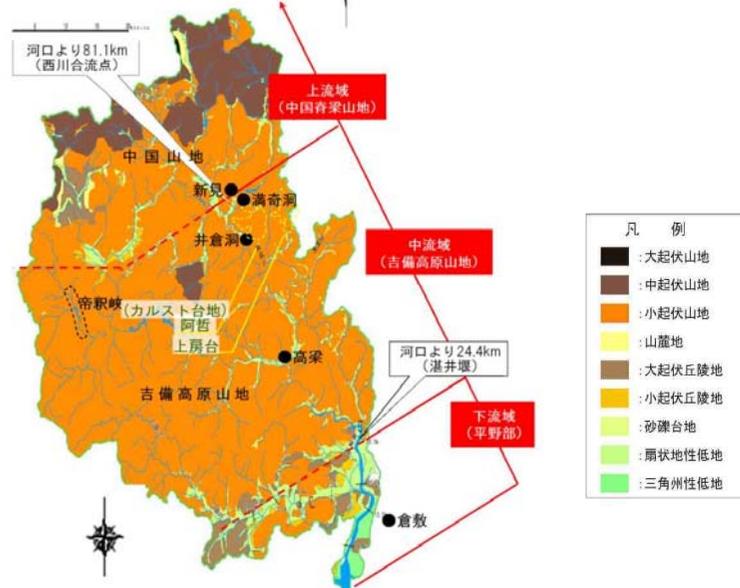
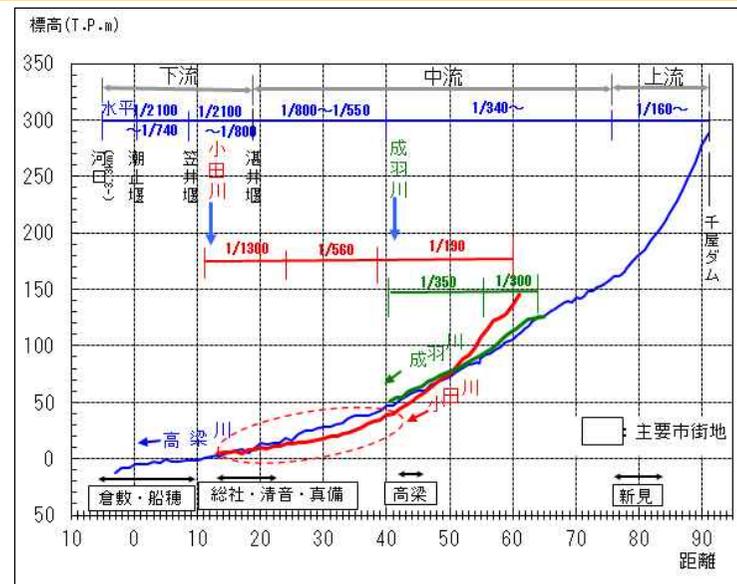
高梁川流域の降雨特性と地形特性

- 高梁川上流域（中国山地）の年間降水量は、全国平均約 1,700mmに比べ多雨傾向。下流域は瀬戸内式気候に属し、年間降水量 1,200mm程度と少雨傾向
- 高梁川本川の中上流域は河床勾配が1/800~1/90と比較的急勾配で、小田川をはじめとする支川は1/1,300~1/190と緩勾配

降雨特性



地形特性



高梁川流域の地形分類図 出典：土地分類図（国土庁土地局 昭和46年）

平成30年7月豪雨による中国地方の出水概要

- 7月5日(木)から本州付近に停滞する梅雨前線の活動が活発になり、中国地方では降り始めからの総降水量が450mmを超え、**昭和47年7月豪雨以来の記録的な豪雨**を観測。気象庁は7月6日(金)に**広島県、岡山県、鳥取県**に大雨特別警報を発令
- 岡山県では、高梁川水系の新見市新見地点、倉敷市倉敷地点で、**観測史上1位の降水量**(48時間累加雨量)を記録
- 倉敷市(岡山)を流れる高梁川、福山市(広島)を流れる芦田川、三次市(広島)を流れる江の川など6水系13河川で「**氾濫危険水位**」を超過し、そのうち5水系9河川で**観測史上最高水位**を記録
- 7月7日(土)には、高梁川支川小田川沿川の倉敷市真備町で、**堤防の決壊**により浸水面積が約1,200haとなる甚大な被害が発生

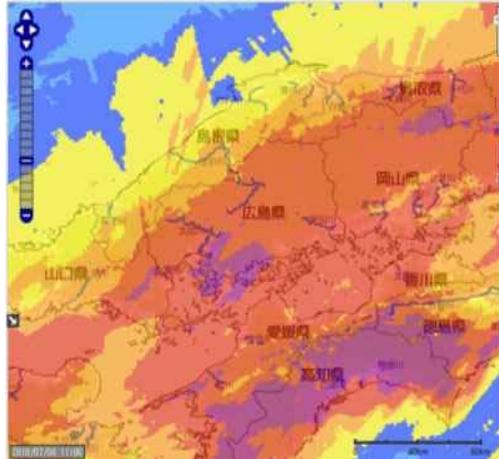
■等雨量線図

【国土交通省作成】



■累加雨量図 (Cパンドレタ)

【国土交通省作成】



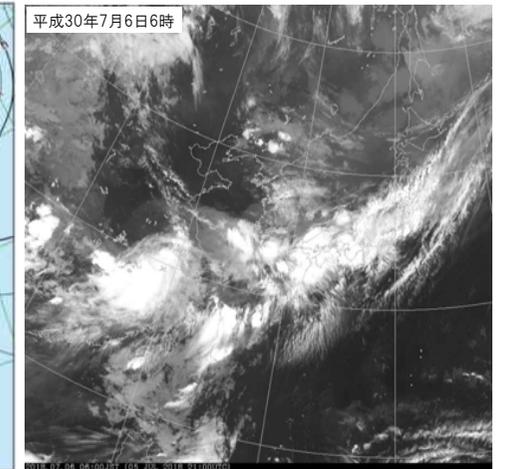
■実況天気図

【気象庁HPより】



■衛星画像

【気象庁HPより】



■観測史上1位を記録した主な雨量観測所

《48時間累加雨量》

- ・高梁川水系 新見 (岡山県新見市) : 392.5 mm/48hr
- ・倉敷 (岡山県倉敷市) : 260.0 mm/48hr
- ・芦田川水系 世羅 (広島県世羅町) : 361.5 mm/48hr
- ・江の川水系 庄原 (広島県庄原市) : 381.5 mm/48hr
- ・太田川水系 三入 (広島県広島市) : 374.5 mm/48hr

《24時間累加雨量》

- ・高梁川水系 新見 (岡山県新見市) : 235.0 mm/24hr
- ・芦田川水系 世羅 (広島県世羅町) : 259.0 mm/24hr
- ・江の川水系 庄原 (広島県庄原市) : 256.5 mm/24hr
- ・太田川水系 三入 (広島県広島市) : 263.5 mm/24hr

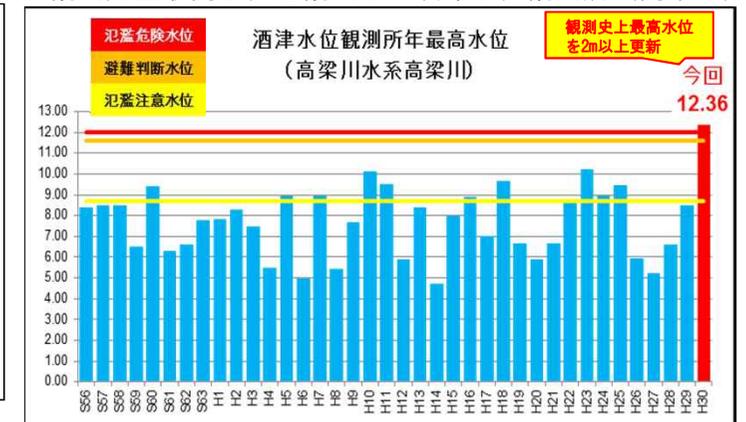
■観測史上最高水位を記録した水位観測所

《氾濫危険水位を超過した観測所》

- ・江の川水系 川本 : 14.21m
- ・江の川水系 尾関山 : 13.40m
- ・吉井川水系 津瀬 : 10.56m
- ・旭川水系 下牧 : 9.62m
- ・原尾島橋 : 6.94m
- ・高梁川水系 矢掛 : 5.67m
- ・酒津 : 12.36m
- ・白羽 : 13.12m
- ・芦田川水系 山手 : 5.97m

他4観測所

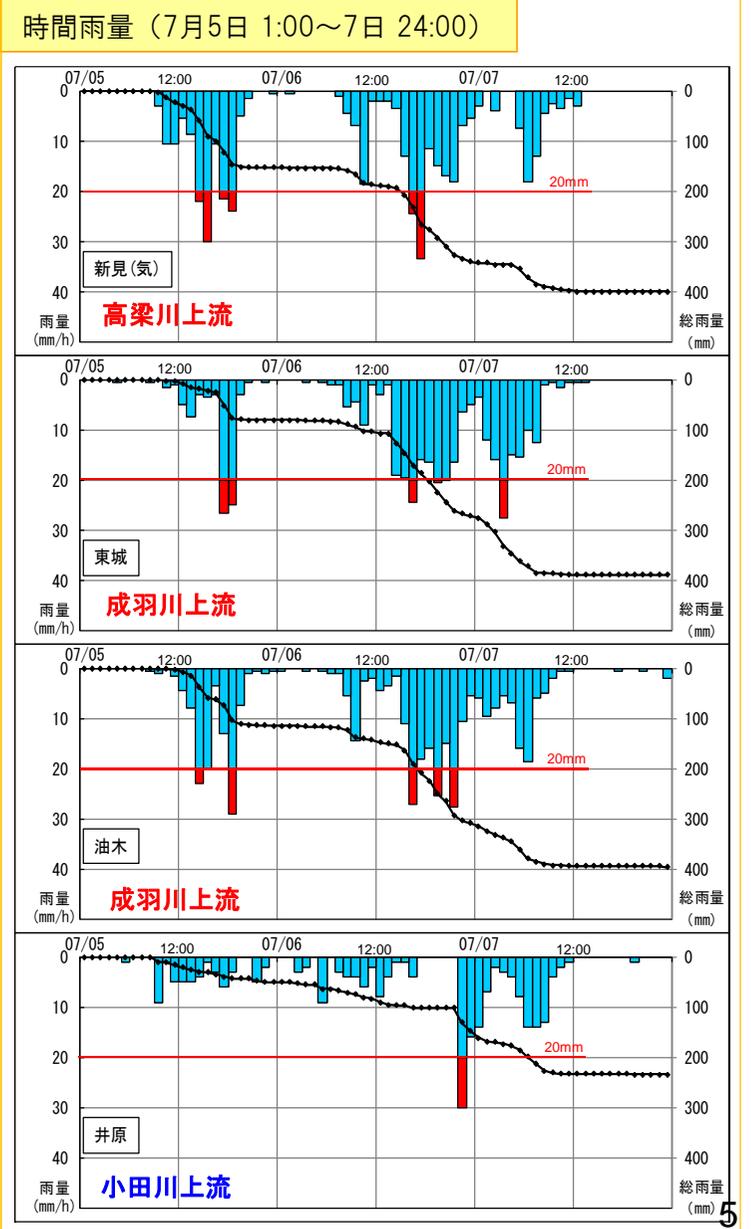
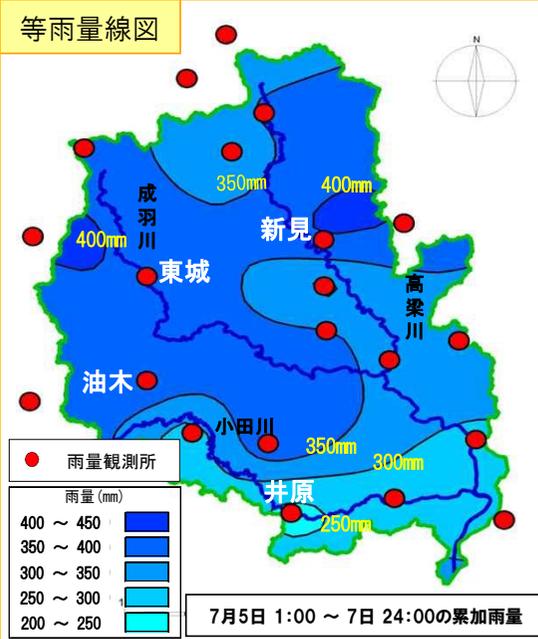
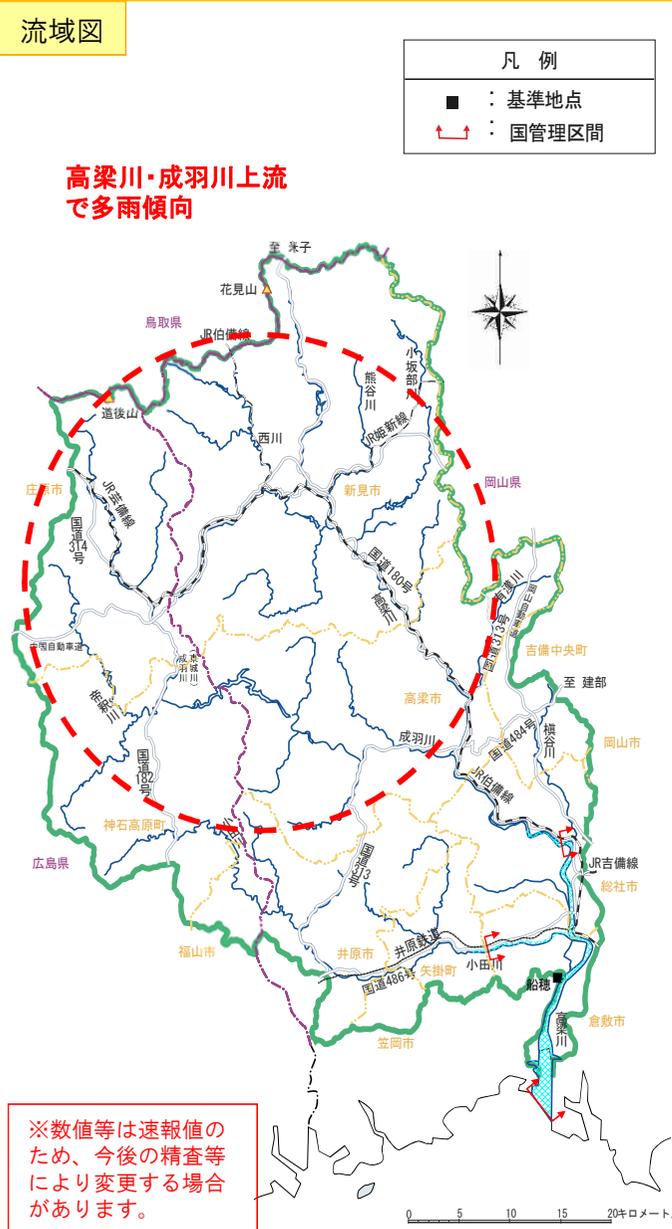
■観測史上最高水位を観測した酒津水位観測所 (高梁川)



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

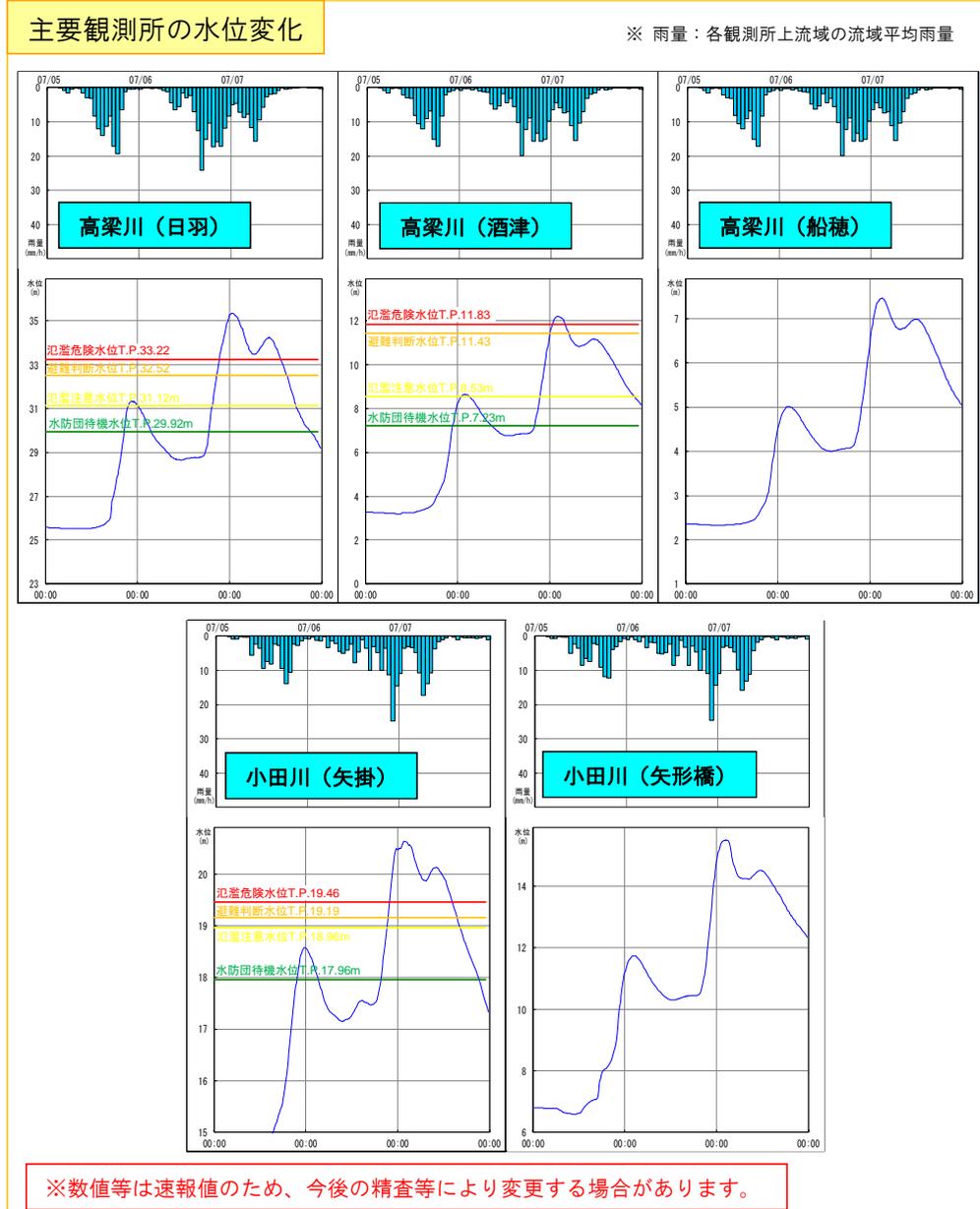
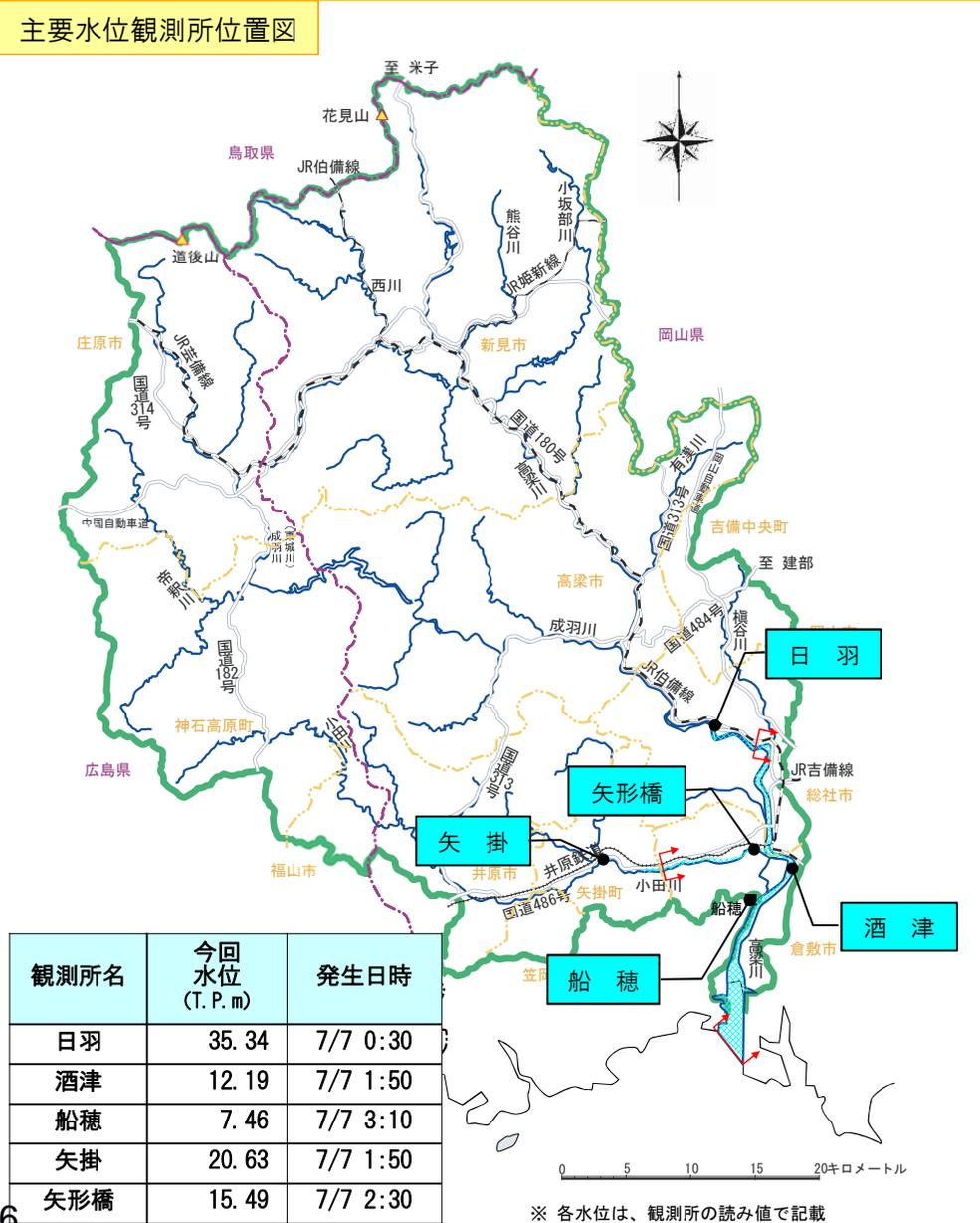
平成30年7月豪雨における高梁川流域の降雨概況

■高梁川流域では、7月5日(木)からの3日間の累加雨量は船穂地点上流域で約350mmと、7月の月間平均総雨量※の約2倍を記録。
■今回の出水では、高梁川上流域と成羽川上流域で、時間雨量20mm程度の比較的強い降雨が15時間程度継続し、7月6日(金)22時頃及び7月7日(土)6時頃に降雨のピークが発生し、各水位観測所では二度の水位ピークが観測される『二山洪水』となった。 ※ H18～H27の平均値



平成30年7月豪雨における主要水位観測所の水位概況

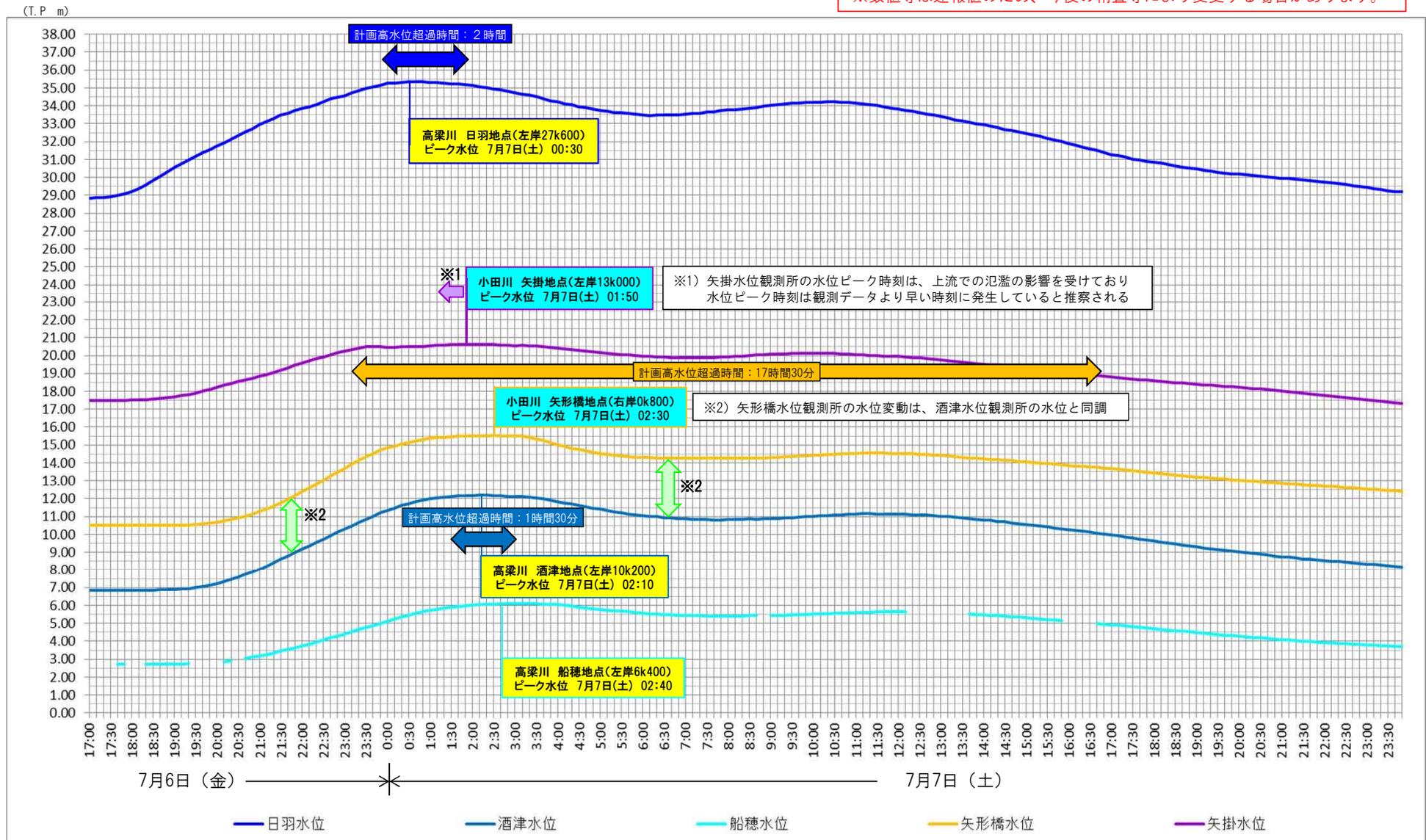
■高梁川流域では5日の昼前から6日夜遅くまで雨が降り続き、高梁川本川（日羽、酒津）、支川小田川（矢掛）の各観測所で氾濫危険水位を超過するとともに、観測史上最高水位を更新する水位となった。



■主要水位観測所のピーク水位と高水位の継続時間

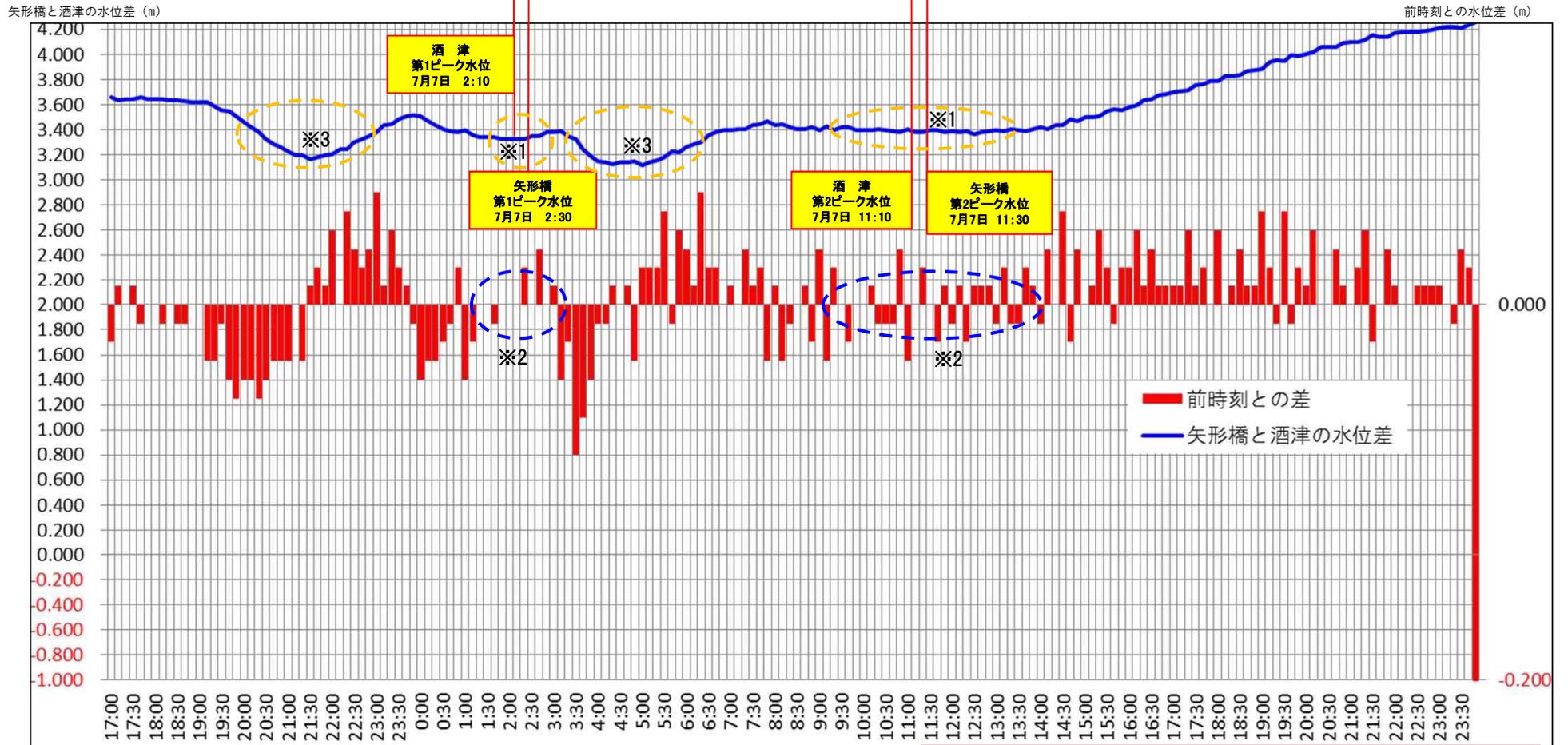
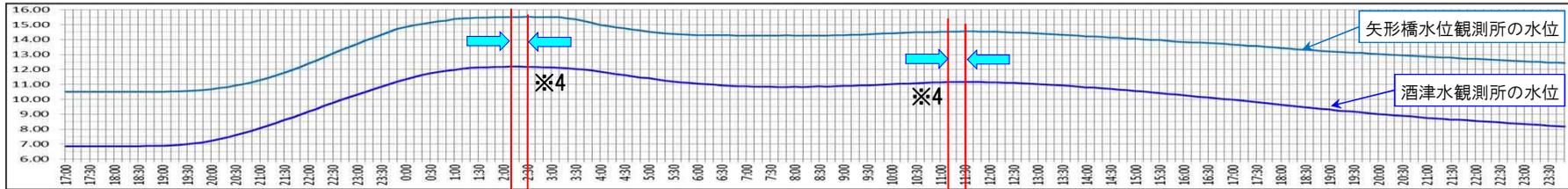
- 日羽水位観測所は、7月7日0:30にピーク水位を記録し、計画高水位を2時間継続（7月6日 23:50～7月7日 1:50）して超過
- 酒津水位観測所は、7月7日2:10にピーク水位を記録し、計画高水位を1時間30分継続（7月7日 1:30～3:00）して超過
- 矢形橋水位観測所は、7月7日2:30にピーク水位を記録し、計画高水位を17時間30分継続（7月6日 23:10～7月7日 16:40）して超過

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。



酒津水位観測所と矢形橋水位観測所の時系列水位差

- 酒津水位観測所と矢形橋水位観測所は、第1・第2ピークとも、その前後の時間帯は水位差が一定になる傾向 ※1
- 酒津水位観測所と矢形橋水位観測所の水位差を、10分前時刻との差分で比較すると水位ピーク時には水位変化はほぼない ※2
- 酒津水位観測所の水位上昇及び下降時には、矢形橋水位観測所との水位差が減少する傾向 ※3
- 酒津水位観測所と矢形橋水位観測所のピーク発生時刻差は、第1・第2ピークとも上流に位置する矢形橋が20分遅れて発生 ※4



7月6日 (金) ※ 7月7日 (土)

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

倉敷市真備町の浸水被害状況



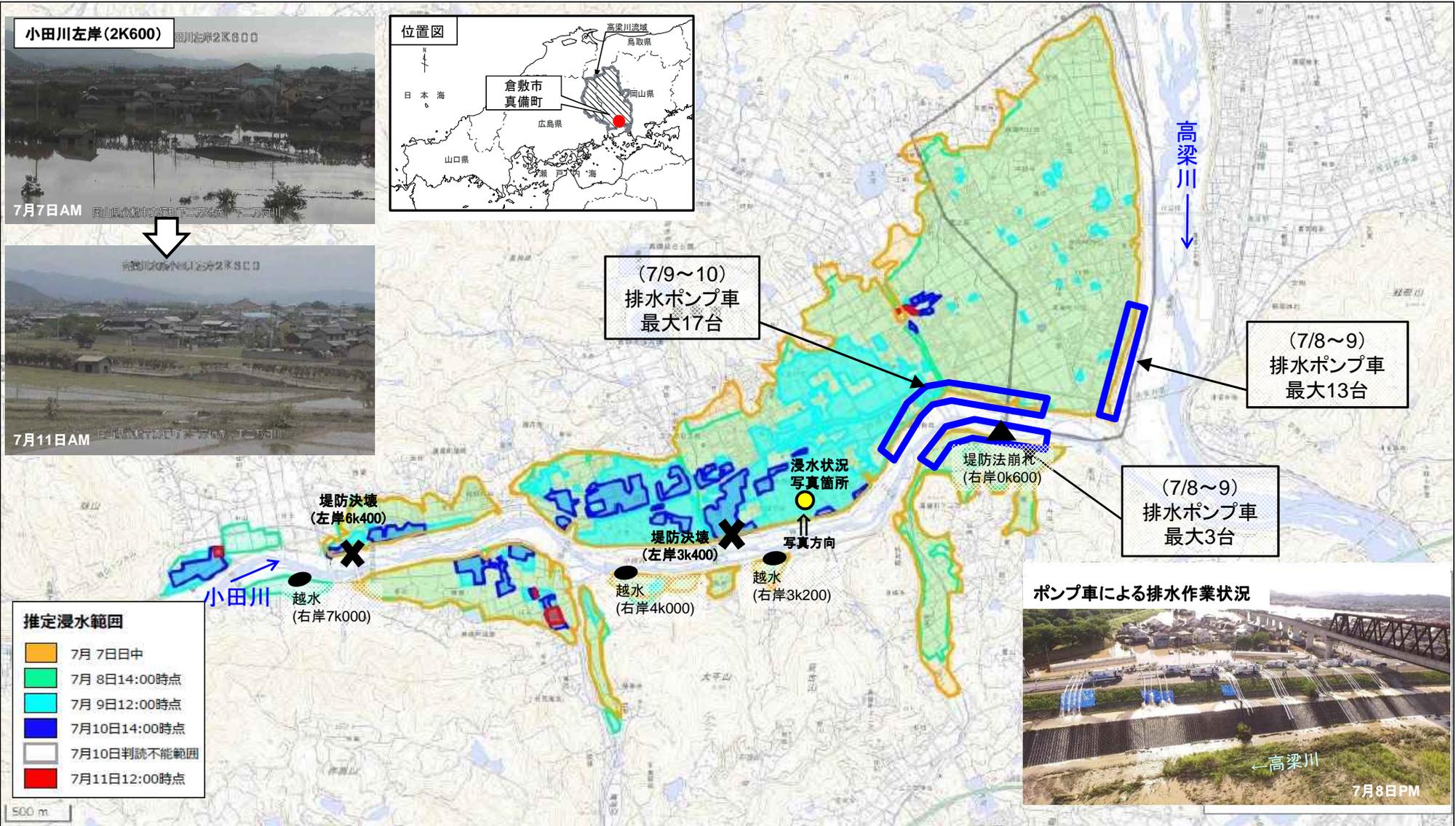
国土を**整**え、全力で**備**える

国土交通省
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

倉敷市真備町の時系列浸水範囲及び緊急排水作業

- 小田川沿川の倉敷市真備町では、市街地が約3日間にわたり浸水状況が継続。
- 7月8日14:00から、国土交通省所有の排水ポンプ車23台により、緊急排水作業に着手し、7月12日に緊急排水作業を完了。



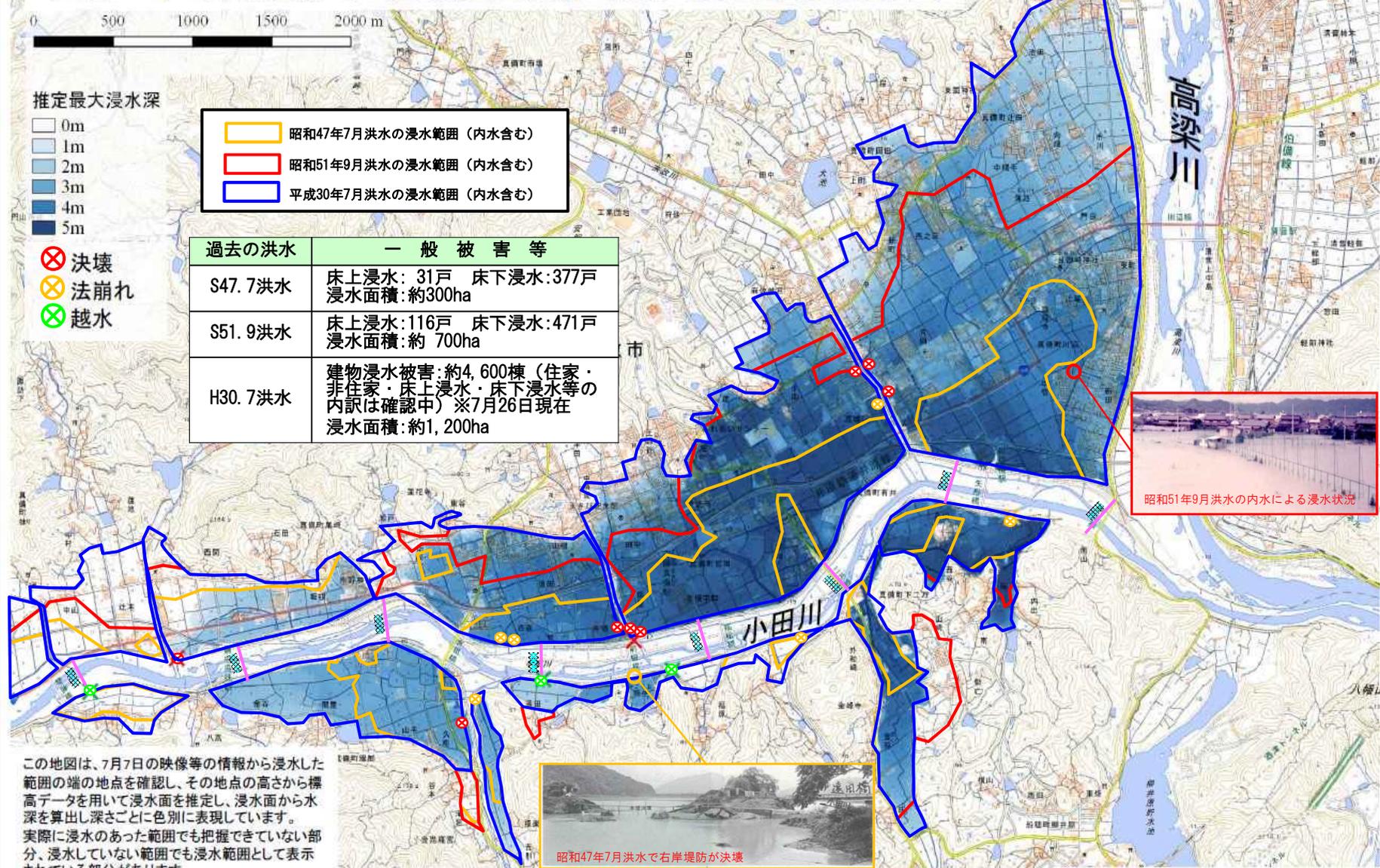
7月7日は、入手できた動画等の情報から浸水した範囲の端の地点を確認し、その地点の高さから標高データを用いて浸水面を推定したものです。
7月8日は、国土交通省災害対策用ヘリコプターが撮影した画像等を用いて浸水範囲を判読したものです。
7月9日は、空中写真等を基に浸水範囲を判読したものです。
7月10日は、国土交通省災害対策用ヘリコプターが撮影した画像等を用いて浸水範囲を判読したものです。
7月11日は、空中写真等を基に浸水範囲を判読したものです。
現地踏査は実施していないことから、実際に浸水のあった範囲でも把握できていない部分、浸水していない範囲でも浸水範囲として表示されている部分があります。

地図の出典：国土地理院ウェブサイト

過去の倉敷市真備町における浸水範囲(推定)

- 高梁川および小田川の急激な水位上昇等に伴い、小田川（2箇所）および二次支川（6箇所）で堤防が決壊。
- 昭和47年7月洪水（小田川右岸が決壊及び内水氾濫）、昭和51年9月洪水（内水氾濫）を上回る浸水被害が発生。

平成30年7月豪雨による倉敷市真備町周辺浸水推定段彩図



地図の出典：国土地理院ウェブサイトからの段彩図を中国地方整備局で一部加工

■今次出水における倉敷市真備町の浸水状況



7月8日（日）撮影 左岸3k400付近堤内地



7月8日（日）撮影 左岸6k400付近堤内地

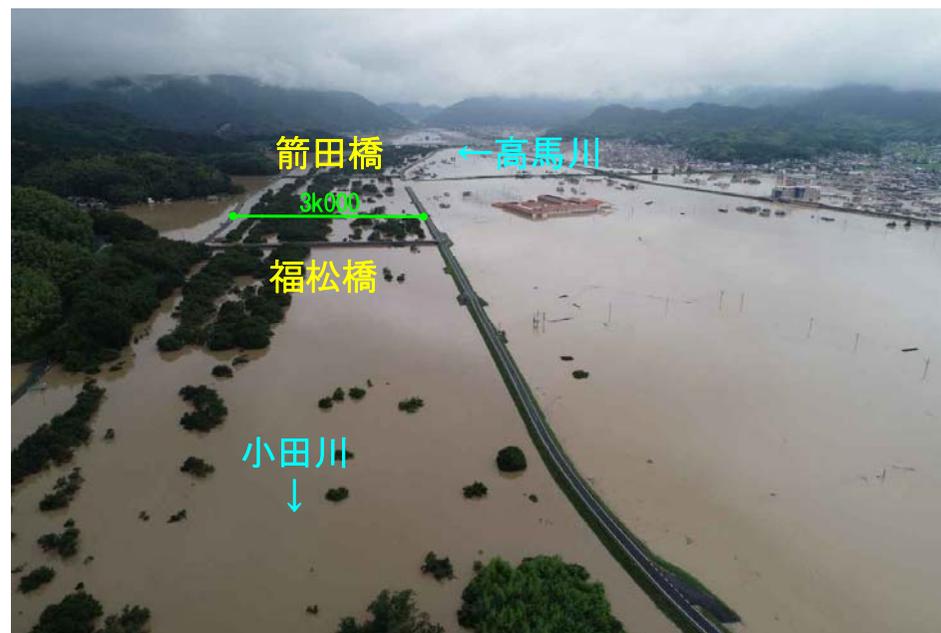
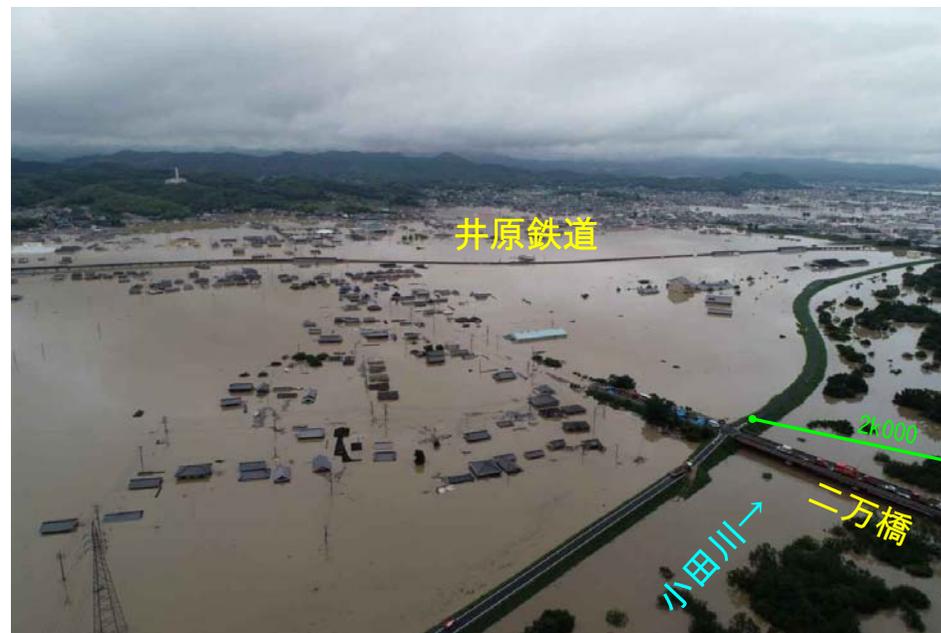


7月7日（土）撮影 左岸1k200付近堤内地
(末政川付近)



7月7日（土）撮影 左岸1k000付近堤内地
(まび記念病院周辺)

■今次出水における倉敷市真備町の浸水状況



■今次出水における倉敷市真備町の浸水状況



7月7日（土）撮影 左岸0k300付近堤内地



7月7日（土）撮影 左岸0k100付近堤内地



7月7日（土）撮影 右岸2k400付近
堤防天端から上流を望む



7月7日（土）撮影 左岸1k600付近
堤防天端から堤内地を望む

国管理河川 小田川の河川管理施設等 の被害及び応急復旧対策の状況



国土を**整**え、全力で**備**える

国土交通省
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

■今次出水における小田川等の主な施設被害等の概況

- 小田川およびその支川において、今次出水により河川管理施設に多くの施設被害が発生。
- 小田川右岸は越水および法崩れが発生しており、小田川左岸は2箇所で堤防決壊が発生。
- 県管理河川においての末政川等において、6箇所で堤防決壊が発生。



被災位置および被災内容（国管理区間）

位置	被害名	備考
左岸2.6k付近	漏水（噴砂）	
左岸3.4k付近	決壊	L=100m
左岸4.2k付近	法崩れ	L=80m、裏法崩れ
左岸4.2k付近	漏水（噴砂）	法崩れ位置より上流
左岸6.4k付近	決壊	L=50m
右岸0.6k付近	法崩れ	L=30m、裏法崩れ
右岸2.6k付近	越水	
右岸3.2k付近	越水	
右岸2.8k~3.8k付近	法崩れ	L=1,000m（点在）、裏法崩れ
右岸4.0k付近	越水	
右岸4.2k付近	法崩れ	L=15m、裏法崩れ
右岸4.2k付近	法崩れ	L=16m、裏法崩れ
右岸4.4k付近	法崩れ	L=70m、裏法崩れ
右岸7.0k付近	越水	

被災位置および被災内容（岡山県管理区間）

位置	被害名	備考
末政川左岸0.4k付近	決壊	L=20m
末政川左岸0.7k付近	決壊	L=200m
末政川右岸0.7k付近	決壊	L=300m
高馬川左岸0.0k付近	決壊	L=20m
高馬川右岸0.1k付近	決壊	L=100m
真谷川左岸0.3k付近	決壊	L=100m
大武谷川（合流点）	法崩れ	L=50m、裏法崩れ

地図の出典：国土地理院ウェブサイト

※今次出水に関する数値等は平成30年7月16日15時時点のものである。 1

■小田川左岸3k400における被災前後の比較(国管理区間)

被災前



被災直後



7月8日(日) 午前撮影

被災前



被災前堤防状況 (H26年度撮影)

被災直後



7月7日(土) 8:00頃撮影

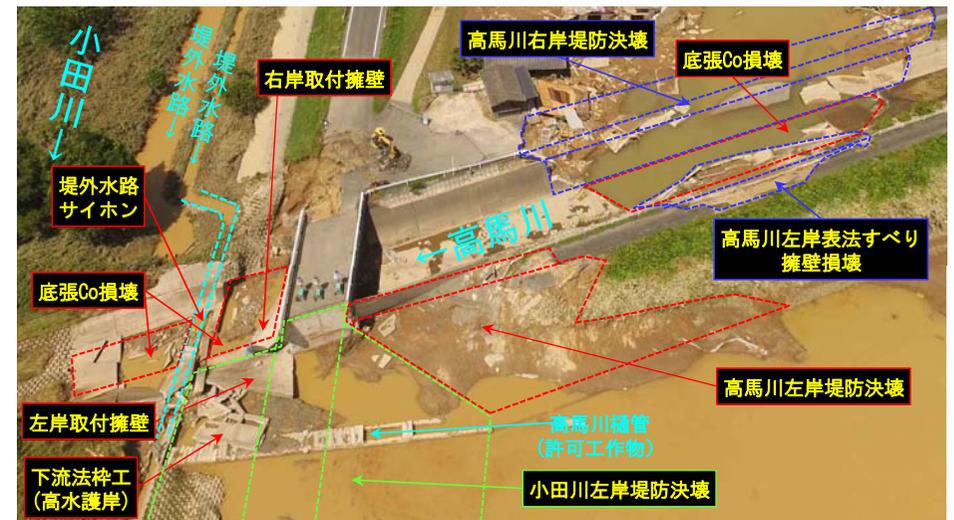
■小田川左岸3k400における被災状況(国管理区間)

高馬川合流点付近 (遠景)



7月9日 (月) 10:00頃撮影

高馬川合流点付近 (拡大)



7月9日 (月) 10:00頃撮影

高馬川右岸



7月9日 (月) 10:00頃撮影

小田川左岸

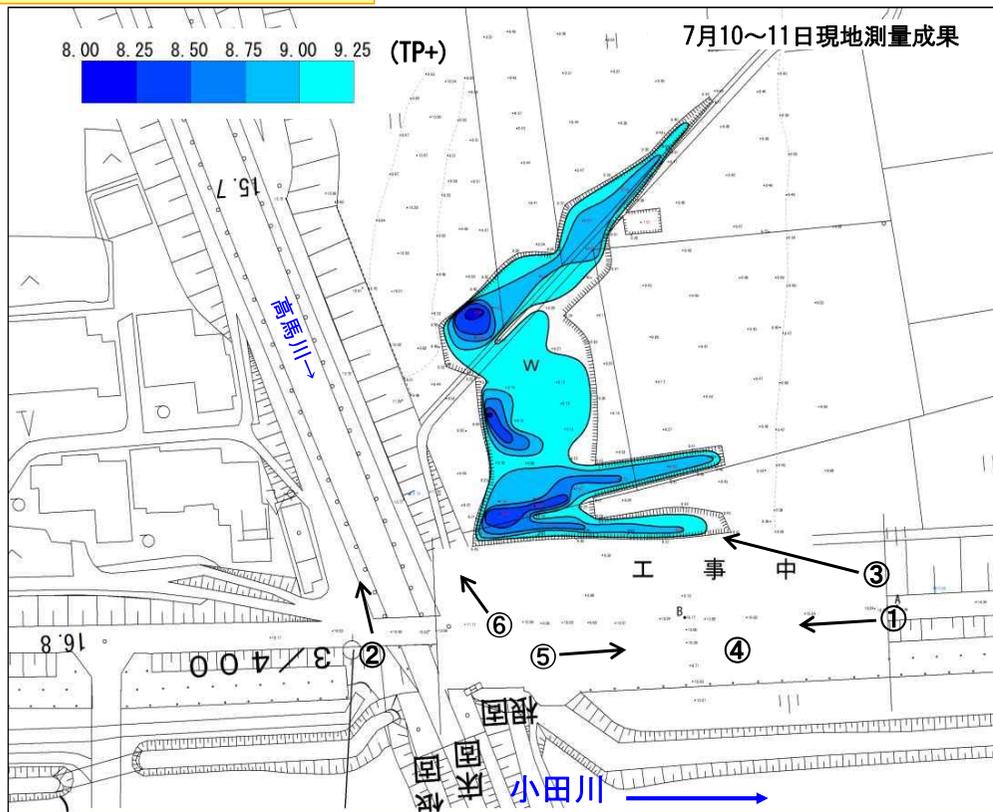


7月9日 (月) 10:00頃撮影

■小田川左岸3k400における被災状況(国管理区間)

- 現地調査の結果、小田川からの越水が確認された。決壊箇所の堤内側堤防法尻付近に「落堀」が形成され、最大で1.2m程度の洗掘深を確認(概略調査)
- 決壊箇所の上流側の落堀は下流側の落堀と比較し規模が大きい
- 高馬川左岸側沿いにも落堀が確認されており、高馬川からの越水により落堀が形成された可能性
- 現地に露出した旧堤防の堤体材料は粘性土が主体

「落堀」洗掘深コンター図



現地調査写真



①決壊箇所全景 7月9日撮影



②決壊箇所上流側 7月8日撮影



③決壊箇所堤内側の落堀 7月12日撮影



④露出した旧堤材料(粘性土) 7月9日撮影

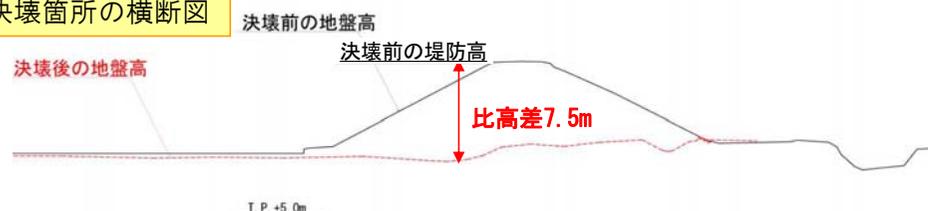


⑤決壊箇所の基礎地盤露出 7月9日撮影



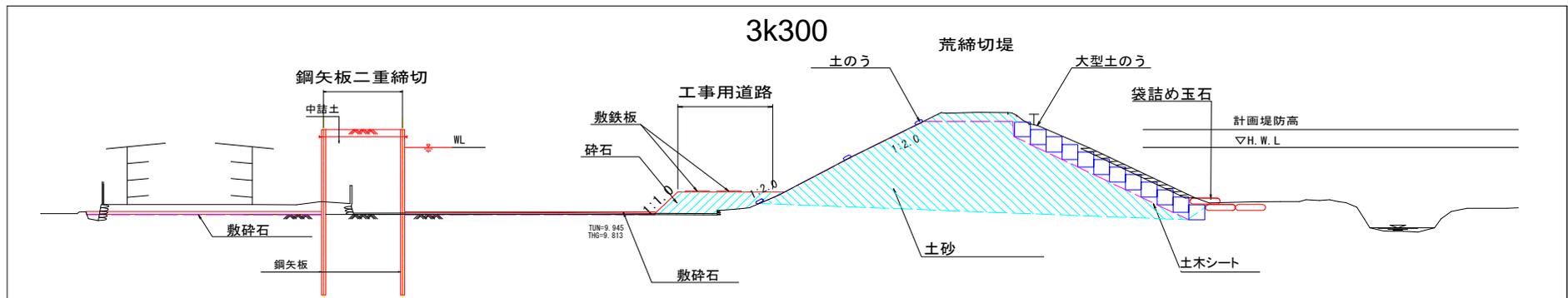
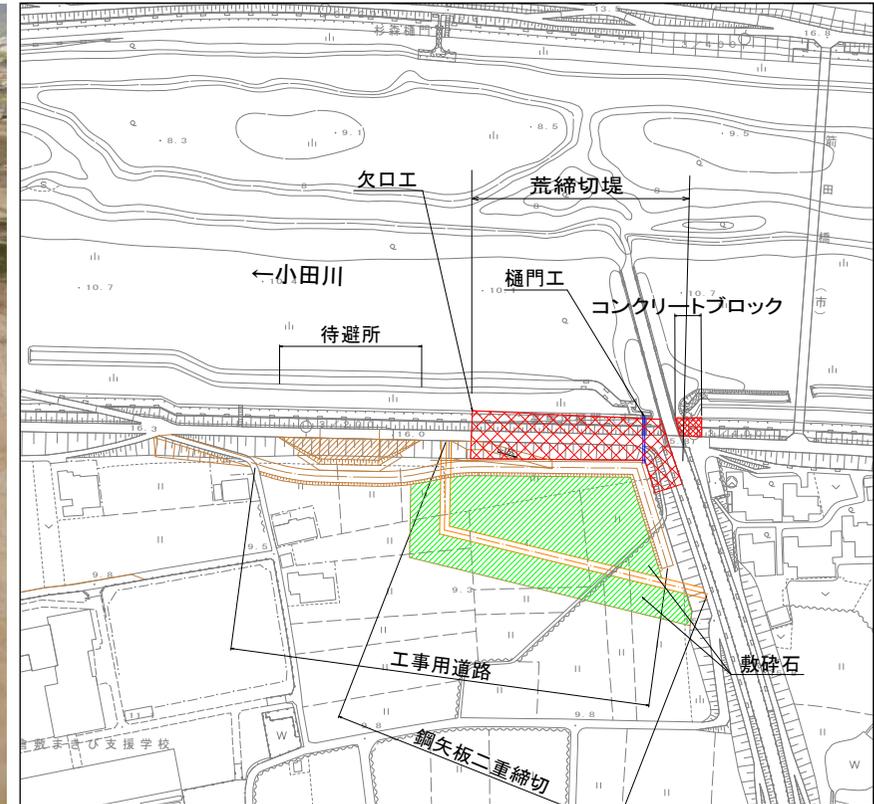
⑥橋梁背面の洗掘状況 7月9日撮影

決壊箇所の横断面図



■小田川左岸3k400における応急復旧対策工法(国管理区間)

- 小田川左岸3k400で発生した堤防決壊の応急復旧対策は、被害発生日の7月7日(土)22:00に緊急対策工事に着手
- 早期の復旧に向け24時間体制で工事を実施し、7月15日(日)23:00には、堤防締切盛土(盛土工: V=14,000m³)を完了
- 7月21日(土)10:00には、二重締切堤防(二重鋼矢板: 910枚)を完了し、応急復旧対策を完了



■小田川左岸3k400における応急復旧対策状況(国管理区間)



7月7日(土)22:00 緊急対策工事に着手 欠け口工完了済 7月8日(日)14:00頃撮影



堤防締切盛土施工中 7月12日(木)14:00頃撮影



大型土のう施工中 7月15日(日)15:00頃撮影



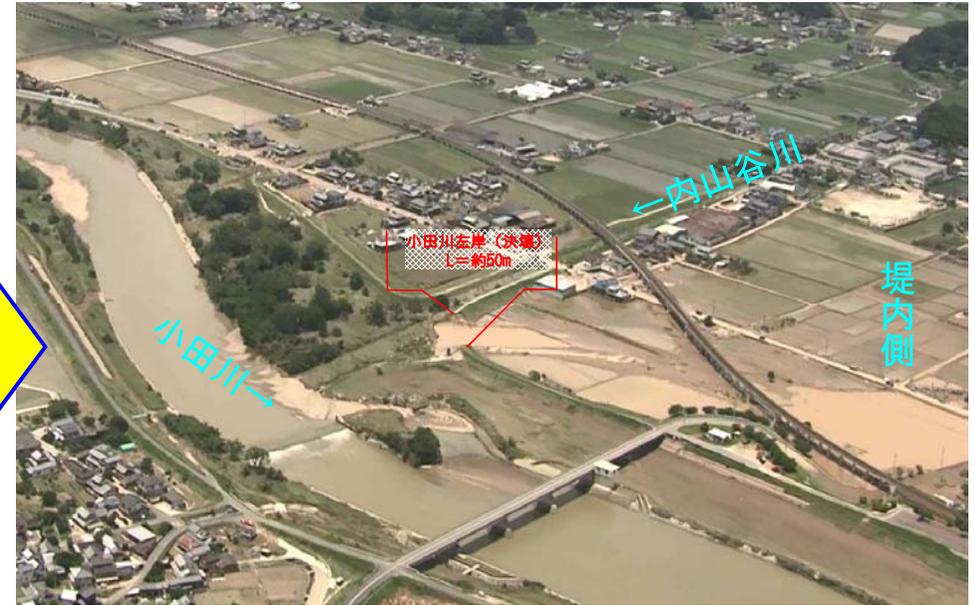
7月21日(土)10:00 応急復旧対策 完了 7月21日(土)11:00頃撮影

■小田川左岸6k400における被災前後の比較(国管理区間)

被災前



被災直後



7月9日(月)午前撮影

被災前



被災直後



被災前堤防状況 (H26年度撮影)

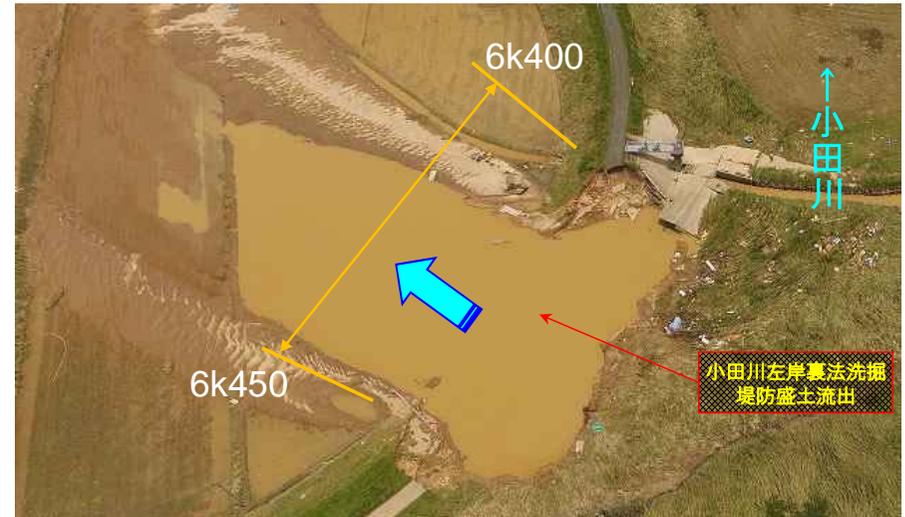
7月7日(土)7:10頃撮影

内山谷川合流点付近 (遠景)



7月8日(月) 15:00頃撮影

内山谷川合流点付近 (拡大)



7月9日(月) 12:00頃撮影

内山谷川



7月8日(月) 15:00頃撮影

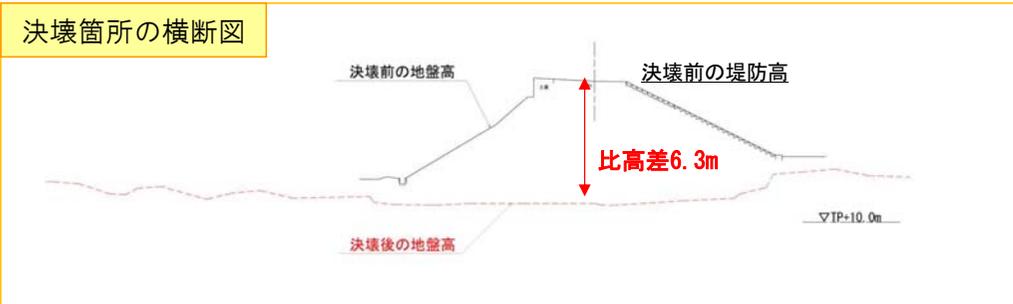
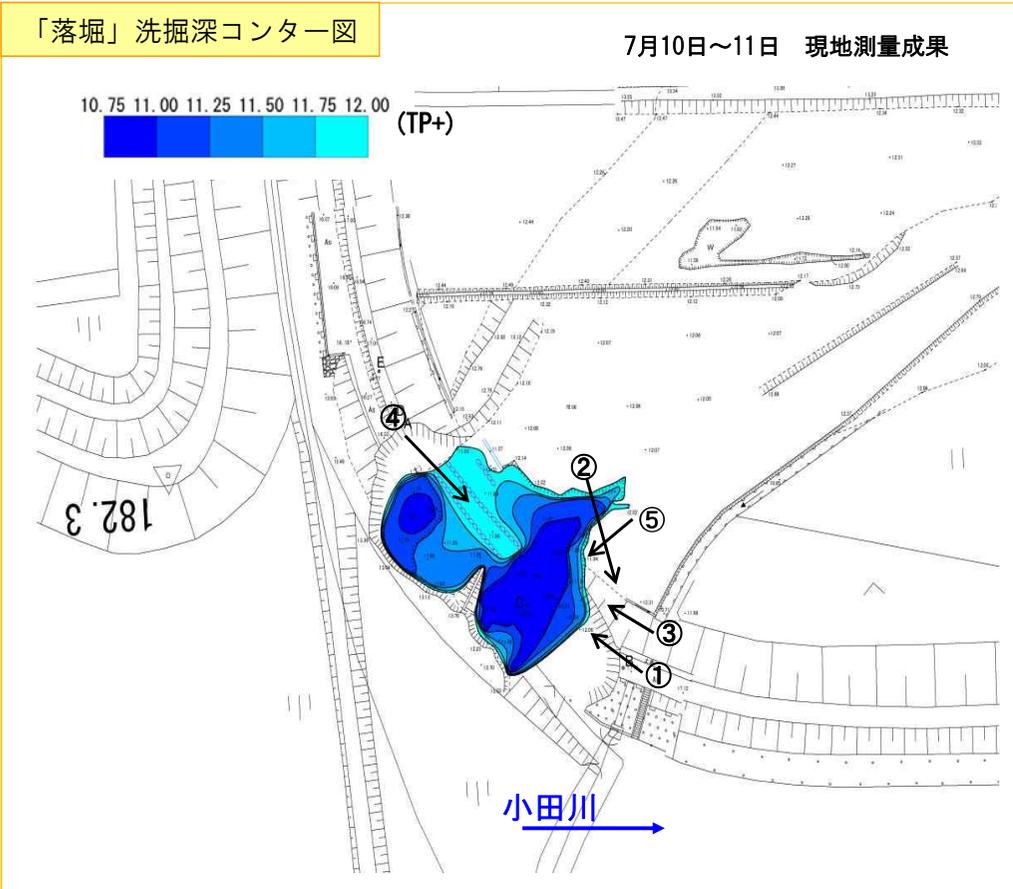
小田川左岸



7月8日(月) 15:00頃撮影

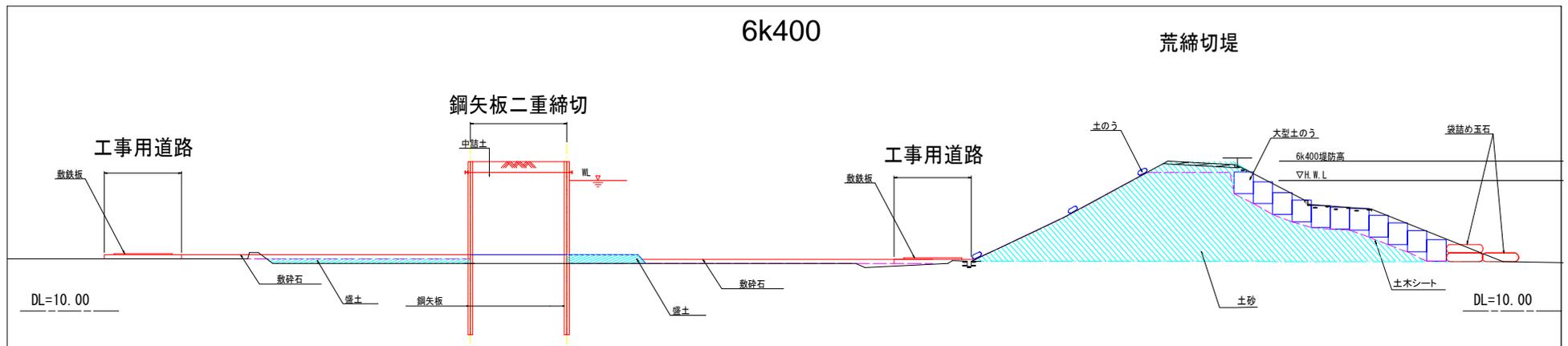
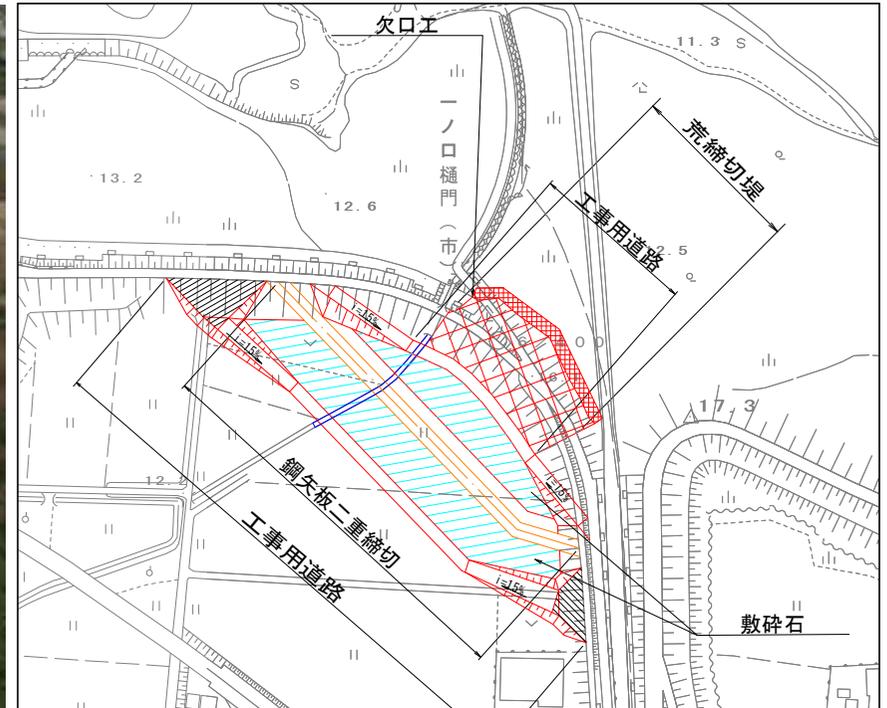
■小田川左岸6k400における被災状況(国管理区間)

- 現地調査の結果、決壊箇所の堤内側堤防法尻付近に「落堀」が形成され、最大で1.3m程度の洗掘深を確認（概略調査）
- 決壊箇所の上流側の落堀は川表側に落堀が形成され、下流側は川表及び川裏の両方に広範囲な落堀を形成
- 決壊箇所下流側の樋門上流には、川表に坂路が設置されており、支川を挟んだ上流側の堤防法線より前に法線が出ている形状
- 決壊箇所には、過去に拡築された堤防跡が確認され、基礎地盤は密度の高い粘性土



■小田川左岸6k400における応急復旧対策工法(国管理区間)

- 小田川左岸6k400で発生した堤防決壊の応急復旧対策は、被害発生翌日の7月8日(土)14:30から緊急対策工事に着手
- 次期出水に向け、早期復旧のため24時間体制で工事を実施し、7月15日(日)16:00には、堤防締切盛土(盛土工: V=5, 300m³)を完了
- 7月19日(木)14:00には、二重締切堤防(二重鋼矢板: 650枚)を完了し、次期出水に向けての応急復旧対策を完了



■小田川左岸6k400における応急復旧対策状況(国管理区間)



7月8日(日) 14:30に緊急対策工事に着手7月8日(日) 15:00頃撮影



堤防締切盛土施工中 7月13日(金) 13:00頃撮影



二重締切堤防(二重鋼矢板)施工中 7月16日(月) 13:00頃撮影



7月19日(木) 14:30 応急復旧対策完了 7月19日(木) 12:00頃撮影

■小田川のその他の河川管理施設の被災状況(国管理区間)



左岸4k900付近 堤内地の漏水跡



左岸2k600付近 堤防裏法面からの噴砂跡



右岸4k200付近 裏法崩れ



左岸4k200付近 裏法崩れ

岡山県管理河川(末政川、高馬川、真谷川)の 河川管理施設等の被害及び応急復旧対策状況

■堤防決壊状況 1)末政川 左岸0.4k

- 有井橋の下流側左岸にて堤防が決壊しており、堤体部で落堀が形成されている。
- 有井橋と上流側堤防の接続部は左右岸ともに洗掘されている。
- 堤防決壊区間の対岸では川表法面すべり、および川裏法面すべりが発生している。



決壊区間写真 (H30/7/9 航空写真)



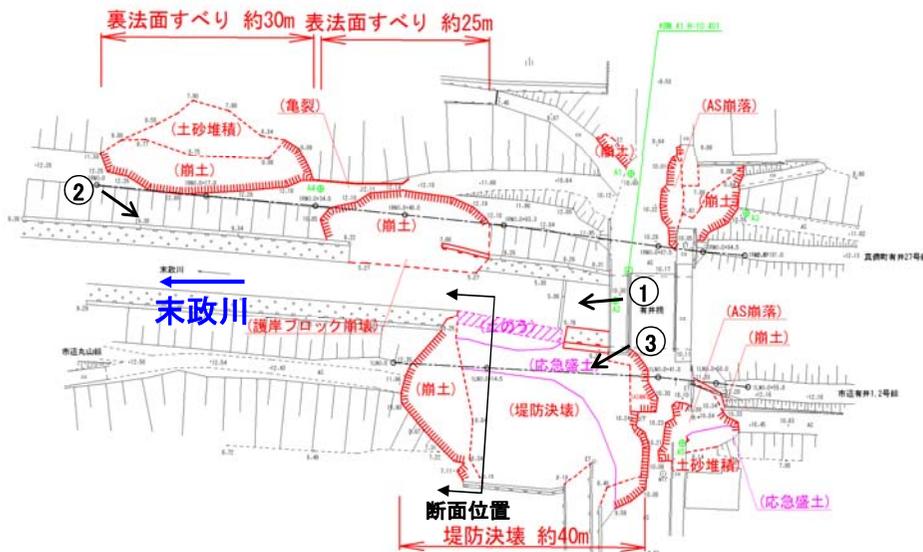
①決壊状況全景 (H30/7/9撮影)



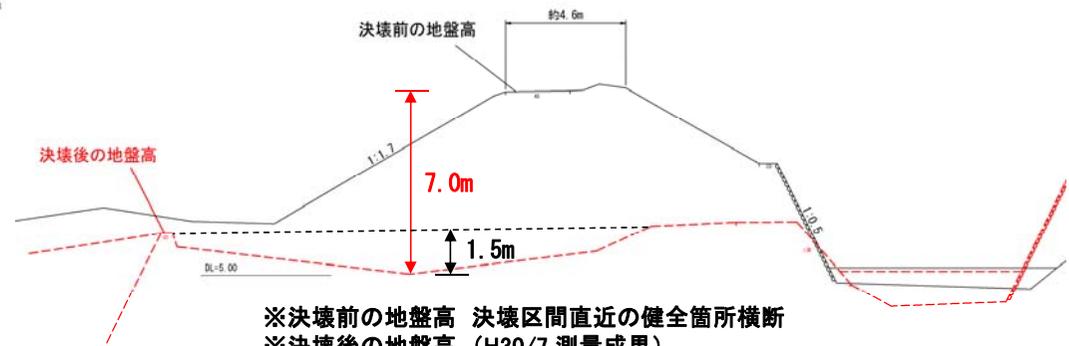
②左岸側の決壊状況 (H30/7/9撮影)



③左岸側の落堀状況 (H30/7/12撮影)



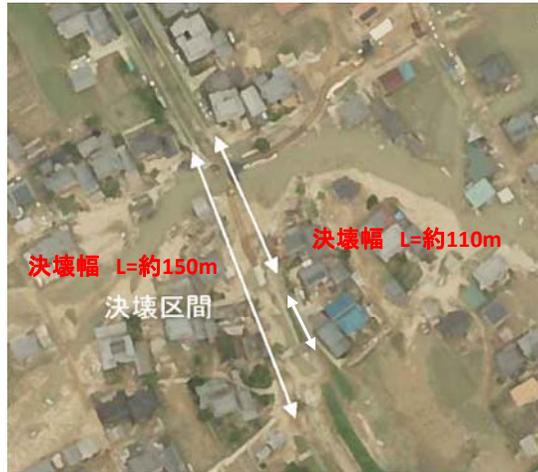
被災後平面図 (H30/7 測量成果)
※決壊延長は、被災後の測量より計測



※決壊前の地盤高 決壊区間直近の健全箇所横断
※決壊後の地盤高 (H30/7 測量成果)

■堤防決壊状況 2)末政川 左右岸0.7k

- 左右岸ともに決壊区間の上流側に落堀が形成されている。
- 右岸側の護岸が河川側に倒壊している箇所が確認できる。
- 川側に護岸が倒れている箇所も確認された。



決壊区間写真(航空写真)
※土木研究所資料より抜粋



①決壊状況全景(H30/7/9撮影)



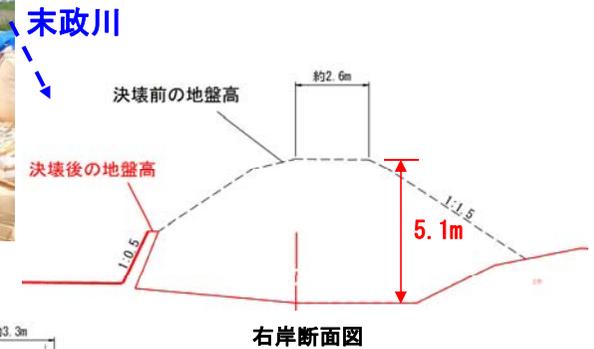
②左右岸側の決壊状況(H30/7/11撮影)



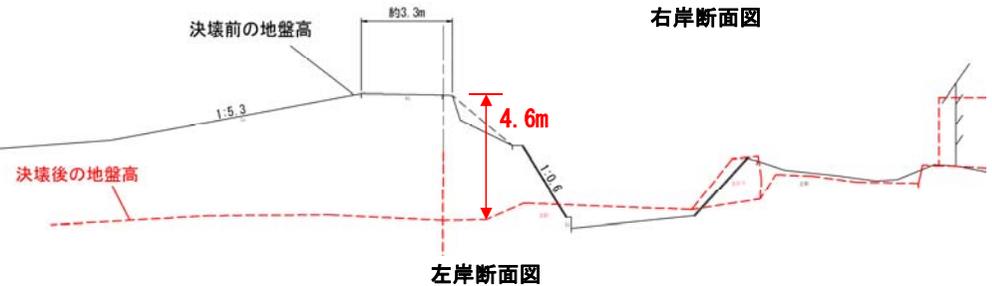
③露出した堤体材料(H30/7/15撮影)



被災後平面図(H30/7 測量成果)
※決壊延長は、被災後の測量より計測



右岸断面図

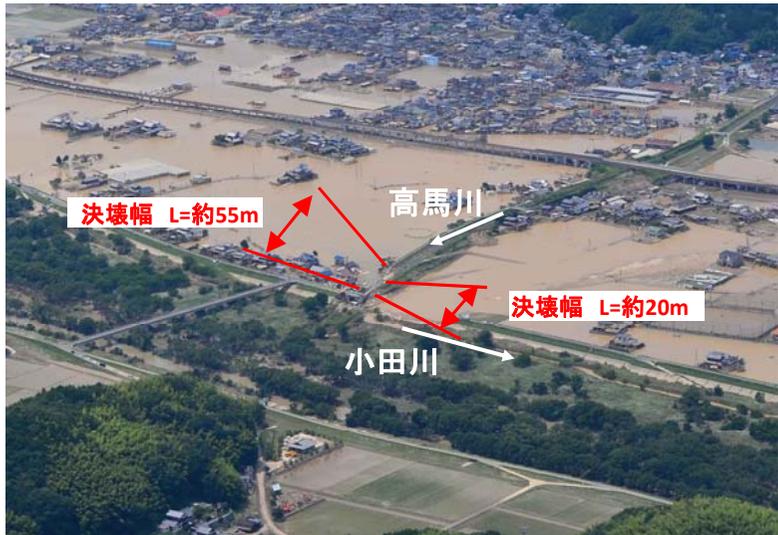


左岸断面図

※決壊前の地盤高 決壊区間直近の健全箇所横断
※決壊後の地盤高 (H30/7 測量成果)

■堤防決壊状況 3)高馬川 右岸0.1k 左岸0.0k

- 決壊区間の上流側に向けて深さ1m程度の落堀が形成されている。
- 決壊区間の対岸は川表法面すべりが発生している。



決壊区間写真 (H30/7/9 航空写真)



①決壊状況全景 (H30/7/9撮影)



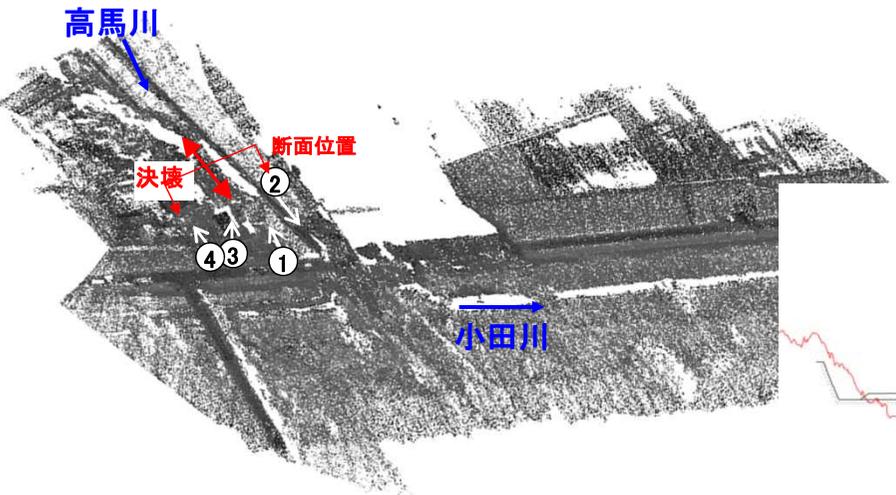
②右岸側の決壊状況 (H30/7/11撮影)



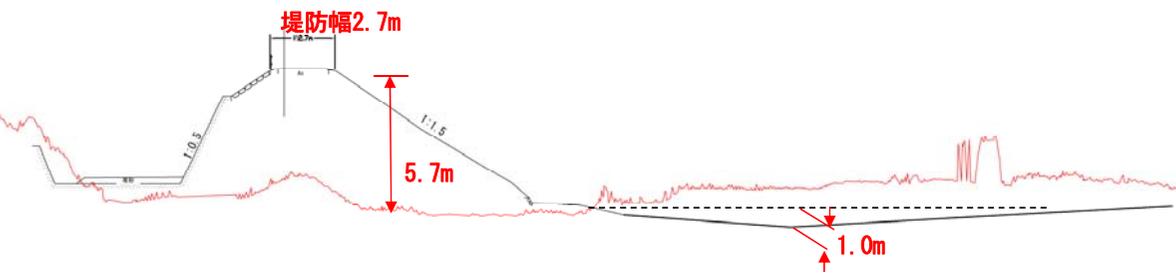
③左岸側の状況 (H30/7/9撮影)



④右岸側堤内状況 (H30/7/9撮影)



被災後平面図(被災後の3D計測データより作成)
 ※決壊延長は、被災後の測量より計測



※決壊前の地盤高 決壊区間直近の健全箇所横断
 ※決壊後の地盤高 (被災後の3D計測データより作成)

■堤防決壊状況 4)真谷川 左岸0.3k

- 決壊区間の縦断方向については、下流端が最も掘れていることが確認できる。
- 背後地は概ね平坦であり、落堀は形成されていない。
- 川表法尻付近が洗掘されていることが確認できる。



決壊区間写真 (H30/7/9 航空写真)



①決壊状況全景 (H30/7/10撮影)



②決壊状況全景 (H30/7撮影)



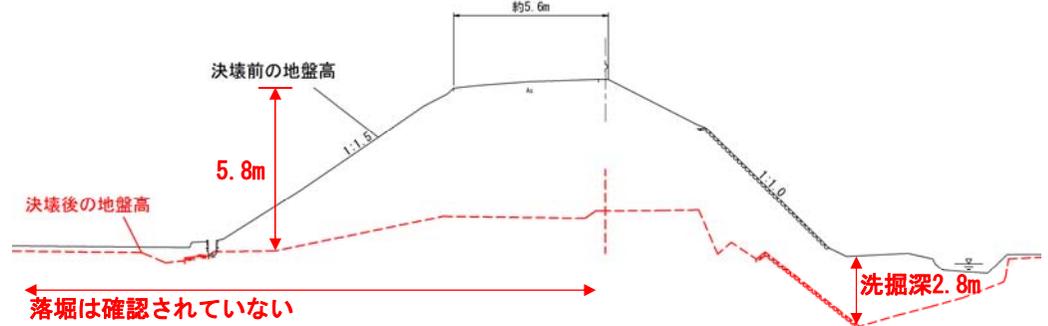
③堤内側全景 (H30/7/15撮影)



④決壊上流端 (H30/7/15撮影)



被災後平面図 (H30/7 測量成果)
 ※決壊延長は、被災後の測量より計測



※決壊前の地盤高 決壊区間直近の健全箇所横断
 ※決壊後の地盤高 (H30/7 測量成果)

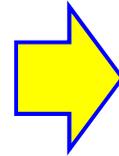
■末政川における応急復旧対策状況(岡山県管理区間)

岡山県

【末政川0.4k】



決壊後状況 7月9日(月) 撮影

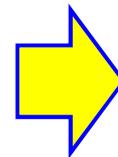


土のう締切施工中 7月16日(月) 撮影

【末政川0.7k】



決壊後状況 7月9日(月) 撮影

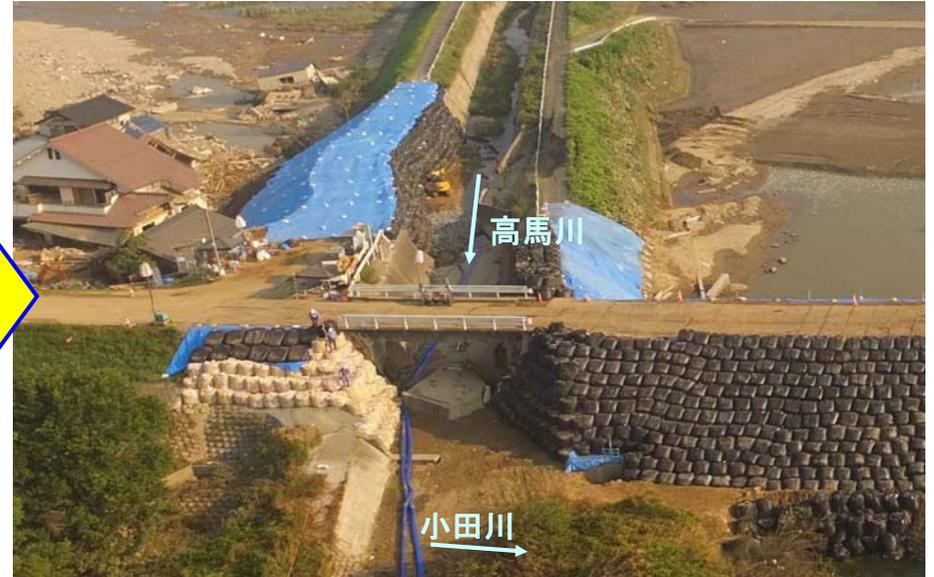


土のう締切施工中 7月26日(木) 撮影

【高馬川】



決壊後状況 7月9日(月) 撮影



土のう締切施工中 7月16日(月)撮影

【真谷川】



決壊後状況 7月10日(火) 撮影



土のう締切施工中 7月26日(木) 撮影